

学校名：<sup>おおのじょうしりつづりようちゅうがっこう</sup>大野城市立御陵中学校  
 校長名：八尋 清繁  
 所在地：福岡県大野城市中1丁目20番1号  
 電話番号：092-503-2901

## I 実践校の概要

### 1 学校・地域の特色及び実態

本校は大野城市北東部に位置している。福岡市と宇美町に隣接しており、空港も近い。「勤勉の心」「敬愛の<sup>こころ</sup>情」「剛健の<sup>こころ</sup>精」の3つの<sup>こころ</sup>ところをもつ生徒の育成を目指している。敷地内に古墳がある珍しい学校で、昭和58年に大野東中学校から分離独立した小規模校である。

本校の生徒は明るく元気で、体を動かすことが好きな生徒が多い。また、運動部への加入者も多く、技能向上を目指して日々の活動に取り組んでいる。しかし、運動に対しての意欲はあるものの継続性が十分でなかったり、失敗を恐れて消極的になったりする生徒もおり、体力のレベルも高いとは言えない。

そこで保健体育科では、各種目において基礎・基本となる技術を習得しながら、「分かる・できる・上達を実感する」楽しさを味わわせることを目指し、日々の授業を実践している。

### 2 学校の概要（平成22年5月1日現在）

	1年	2年	3年	特別支援学級	計	
学級数	3	3	3	1	10	
生徒数	男	49	53	47	1	150
	女	44	48	50	2	144
	計	93	101	97	3	294

教員数 21名（保健体育科 2名）

### 武道・ダンスの授業の状況

領域:ダンス		領域の内容:創作ダンス				
	1年	2年	3年	特別支援学級	計	
配当時間数	10	0	0	0	10	
担当教員数	1	0	0	0	1	
(外部指導者)	(1)	(0)	(0)	(0)	(1)	
生徒数	男	0	0	0	0	0
	女	46	0	0	0	46
	計	46	0	0	0	46

領域:ダンス 領域の内容:現代的なリズムのダンス・フォークダンス

	1年	2年	3年	特別支援学級	計	
配当時間数	0	9	9	0	18	
担当教員数	0	2	2	0	4	
(外部指導者)	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	
生徒数	男	0	53	47	0	100
	女	0	48	50	0	98
	計	0	101	97	0	198

## II 授業事例及び今後の展望等

### 【本事業の成果の要点】

創作ダンスの経験がない生徒が、抵抗なく授業に参加し、創作ダンスの楽しさや表現することのよさを味わうため、ダンスの指導に詳しい他校教員や高等学校教員、また外部指導者との連携を図り、授業づくりの工夫に取り組んだ。

他校教員からは単元構成について、高等学校教員からはダンスの魅力や高校のダンスの授業の様子について助言を得たことで、効果的な授業の展開につながった。

外部指導者(エアロビクスインストラクター)を招いた授業では、生徒は思いきって体を動かす楽しさを感じてダンスへの抵抗感を取り除き、その後の授業では意欲的に表現する姿が見られた。

本実践全体を通して、生徒は表現することのよさ、体を動かすことの楽しさ、仲間とかかわることの大切さを実感することができた。

### 1 研究テーマ等

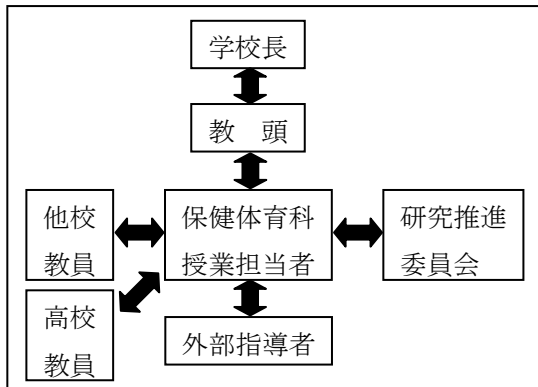
#### (1) 研究テーマ

「創作ダンスの楽しさを味わわせるための外部指導者との連携の工夫について」

#### (2) 研究テーマ設定のねらい

外部指導者を活用したり、指導を受けたりすることで、創作ダンスの経験のない生徒が抵抗なく授業に参加できるようにする。

(3) 取組体制



(4) 本事業における主な取組

平成22年度	○研究構想	平成22年6月
	○単元構想立案及び指導案作成, 指導助言及び外部指導者との 打ち合わせ	平成22年8月
	○実証授業	平成22年9月～10月
	○研究のまとめ	平成22年11月

2 授業事例（創作ダンス）

(1) 目的

- 意欲的に学習に取り組み、仲間のよさを認め合ったり、表現の工夫を話し合ったりして、ダンスの楽しさや表現することのよさを味わうことができるようにする。  
(関心・意欲・態度)
- 音や言葉、多様なテーマからイメージをとらえ、それをもとに動きや踊りを工夫することができるようにする。  
(思考・判断)
- 音や言葉などを手がかりに即興的に動いたり、多様なテーマのイメージを表現したりするための動きができるようにする。  
(技能)
- ダンスの特性や表現の仕方について、具体例を挙げて説明できるようにする。  
(知識・理解)

(2) 具体的な指導方法

① 学習Ⅰ：単元のオリエンテーション

生徒のダンスに対する不安や抵抗感を取り除くため、次のような約束事を共有した。

- 恥ずかしがらずに動く。
- 他者の意見やアイデア、動きを尊重する。
- 仲間のよさを見つける。

② 学習Ⅱ：生徒の心と体をほぐす

生徒が創作ダンスの楽しさを味わうためには、思い切り体を動かし、表現することが大切である。そこで、生徒の心と体をほぐし、ダンスの授業に抵抗なく取り組めるように次の学習活動の工夫を取り入れた。

ア ストレッチ・体ほぐしの運動

オリエンテーション後の1時間目として、個人や二人組でストレッチを行い、自分や友達の体の調子に気付くことができるようにした。体ほぐしの運動では、多くの仲間と関わることができるよう、二人組や小集団を次々と交替しながら、反射神経じゃんけん（二人で向かい合って座り、片方の手のひらを合わせて反対の手でじゃんけんをし、勝った方が相手の手の甲をたたき、負けた方は逃げる：写真1）や全身じゃんけん（グーはしゃがむ、チョキは膝を曲げて立ち手を前後に出す、パーは両手両足を大きく広げて立つ）などの運動に取り組んだ。また、即興での楽しさを味わえるよう、教師が指示した通りの速度や方向、歩き方で動くという運動も取り入れた。

これらの活動は、生徒の興味関心を引き出し、全身を使うことでウォーミングアップにもつながると考え、単元を通して各授業の導入部分に取り入れた。



### 【写真1：反射神経じゃんけんの様子】

#### イ ペア・グループでの活動

テーマに沿った動きを体験させるためリーダーの動きや歩き方を模倣したり、リーダーを引き立たせる動きを即興で考えたりする活動を取り入れた(写真2)。リーダーやグループを交替することで生徒同士の関わりを増やし、生徒は多くのアイデアや動きを出すことができた。

授業後の感想にも「リーダーになった時、動きをとっさに考えるのは大変だった。でも、みんながついてきてくれるので、思いきりやれた。楽しかった。」とあり、生徒がお互いを認め合って活動することにもつながっていた。



【写真2：リーダーを引き立たせる動きの様子】

#### ウ ペーパームーブメント

物との関わりを通して思いもよらない動きを引き出すため、A4紙を「魔法の紙」と称して配付した。生徒は、手のひらに当てて落とさないように歩いたり、様々な方向に紙を動かしたりした。また、二人組で歩いたり走ったりしながら静かに紙を手渡したり、上から下へ紙をゆっくりと動かし、下で構える相手に手渡させたりした(写真3)。

また、教師はゆっくりした神秘的な音楽を流して雰囲気づくりを行った。生徒は紙を使うことで新しい動きやより大きな動きができるようになった。授業後の感想にも「本当に魔法の紙のような気がした。自分もペアの人もどンドンいろいろ

んな方向に紙を大きく動かして、踊っているみたいだった。」とあり、生徒の多様な動きを引き出すことができた。



【写真3：ペーパームーブメントの様子】

#### エ エアロビクスダンス

音楽を使って体を動かすことの楽しさを味わわせることとボディートレーニングを目的として外部指導者(エアロビクスインストラクター)を招き、エアロビクスダンスに取り組んだ(写真4)。

外部指導者には事前に生徒の実態を伝え、簡単なステップや動きの繰り返しを多く取り入れて運動強度を高め、大きな動作で思い切り動くことの楽しさを体験するというねらいを設定した。

生徒は、最初、恥ずかしがっていたものの、次第に大きな動きを意識してできるようになった。授業後の感想にも「初めてエアロビクスをして難しかったけど、大きく動けるようになってくると楽しめるようになった。気がついたらどンドン積極的に踊っていて、自分でもびっくりした。」など、徐々に大きく動くことに親しんでいた。また、「〇〇さんはリズムにのって大きく動いていてかっこよかった。」と、友達によさに気付く生徒も多くいた。



【写真4：エアロビクスダンスの様子】

#### オ 新聞紙を全身で表現する

ペーパームーブメントと同様に物を使うことで大きく、多様な動きを引き出すことをねらいとし、新聞紙を折ったりねじったりし、その形を自由に表現した。

まず、教師が新聞紙を広げて生徒に見せ、「あなたは今から新聞紙です。この新聞紙になりきって、全身を使って表現してみましょう。」と伝えた。教師は新聞紙を二つ折り、四つ折りと様々に折りたたみ、再び広げた後、床にふわっと置いたり、丸めて転がしたりした。生徒は新聞紙の形が変わる度に様々な動きを考え、全身を使って表現することができた。

その後グループを作り、リーダーになった生徒が教師と同様に新聞紙の形を変え、それを別のメンバーが表現することを交替で行った。生徒は「床に置いた新聞紙の真ん中をつまむ」など多彩なアイデアを出し、それを表現しようとしていた。各グループで歓声が上がり、非常に活気のある授業になった(写真5)。



【写真5：新聞紙を全身で表現する様子】

このような5つの学習活動の工夫を通して、生徒は大きな動きを楽しむことができるようになった。また、活動自体に遊びの要素も含まれていたため、自然に心と体を解放させることにもつながった。最初は恥ずかしさばかりで消極的な生徒も多かったが、次第に意欲的に活動するようになり、表現することを積極的に楽しもうとする生徒が増えていった。

### ③ 学習Ⅲ・Ⅳ：まとまりのある作品をつくる

創作ダンスでは、テーマをとらえて表現できるようになることが大切である。生徒が多様なテーマからイメージをとらえ、それをもとに動きや踊りを工夫すること、そのイメージを表現するための動きができるようになることをねらいとし、次のような学習活動の工夫を取り入れた。

#### ア スポーツを表現しよう

ここでは、スポーツをテーマにしたグループでの創作をねらいとし、最初にテーマ(種目)を決めた。次に、アイデアカードを使ってイメージや動きを個人で考えさせ、それをグループで見せ合うところまでを取り組んだ(写真6)。

2時間目には作品の流れを作らせ、中間発表会を設定した。ここでは、アイデアカードの意見を小さなカードにしてグループ全員分を持ち寄り、動きや順番などを話し合っただけで動きの構成を決定し、練習に取り組んだ。生徒はグループで意見を出し合いながら、動きや表現方法を考え、種目の特徴的な動きや対戦相手などの様子を工夫して表現していた。

中間発表会は、練習した作品をグループごとに発表したり、鑑賞したりできるように構成した。生徒は、楽しみながら表現することができた。また、生徒同士でよかった点や改善策などの意見交換を取り入れたことで、互いのよさを認め合うとともに、まとまりのある表現を創るためには、意見を出し合っただけで動きの順番やつながりを考えていくことが必要であることを実感できていた。

一方で課題も出てきた。1点目はめあてである。「まとまりのある作品を創ろう」と設定したが、これでは具体性がなく、生徒が何を表現したらいいのか、教師の付加説明がなければ分かりにくいことが明らかになった。



2点目は、生徒に動きの数を制限しなかったことである。さらに教師がヒントカードを提示したため、内容が多すぎ、一番表現したい部分が曖昧になってしまった。

3点目は、音楽の使い方である。意見を出し、順番を考える構成の場面でなかなか意見が出ず、活動がうまく進まないグループがあり、生徒が教師の助言を待っている状態であった。生徒自らが構成のアイデアが浮かぶようにするためには、その場面で生徒が種目に合った曲をいつでも聴けるよう、環境を整える必要があった。



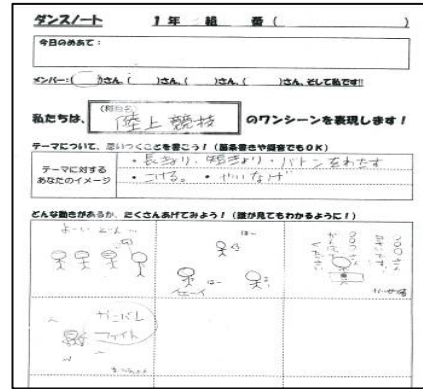
【写真6：アイデアカードを並べる様子】

イ エアースポーツ大会をしよう

「ア スポーツを表現しよう」の2時間の授業で出たいいくつかの課題を解決すること、また、一人でも多くの仲間と交流させ、表現の仕方を高めることをねらいとし、テーマを再びスポーツに戻して3時間の授業を行った。

まず、めあてを具体的に示し、生徒はダンスの構成の「なか」つまり「一番表現したい部分」から創作した。前回は動きの個数に制限をせず、教師が多くのヒントカードを提示したため、内容が多すぎ、一番表現したい部分が曖昧になってしまった。ここではその改善として、「なか」はアイデアカード(資料1)3枚とヒントカード1枚までと数を制限し、「繰り返し」や「スローモーション」など動きの効果を利用して一番表現したい部分

を強調することを条件とした。生徒は、そのことについて熱心に話し合い、動きを考えて練習を重ねた。また、「巻き戻し」や「リプレイ」など表現を強調するためのアイデアが出るほど意欲的に取り組む生徒の姿が見られた。



【資料1：生徒が記述したアイデアカード】

次に、「なか」を引き立たせるような「はじめ」と「おわり」を創作した。生徒は、様々な視点からアイデアを出し、試合中だけでなく試合前のセレモニーや試合後のインタビュー、周囲の観客や解説者を演じるなど「なか」を引き立たせる工夫を加えて行くことができた(写真7)。なお、作品構成と練習の間、種目に応じた音楽をグループごとに聴くことを取り入れた。「この場面にはこの音楽がいい」など、より場面を具体的に考えるようになり、意見を広げることができた。

最後の発表会では、発表前に生徒は「どの種目のどの場面を表現するのか」を検討した。そして、中間発表会と同様に種目に応じた音楽(構成段階で使用した曲)を教師が流し、臨場感を演出した。生徒は、中間発表会の時よりも大きく動き、スローモーションや巻き戻し、リプレイなどの効果を使って「一番見せたい部分」を表現することができた。

授業後の感想には、「△△グループの発表がとても面白かった。何をしてるのかすごく伝わってきたし、スローモーション

ョンが上手く使われていた。」「巻き戻して再びゴールシーンを演じるアイデアが面白かった。」などがあり、生徒は表現の工夫を楽しむことができていた。

エアスポーツ大会をしよう！				1年 組 メンバー：( )、( )、( )、( )、( )、( )	
今日のめあて：アイデアカードの動きをつなげて、グループでまとまりのある作品をつくろう。					
私たちが、		陸上競技の	ゴールの場面(その後)	を表現します。	
目的	必要な道具	必要な場所	必要な服装	必要な音楽	必要な衣装
アイデアカードの動きをつなげて、グループでまとまりのある作品をつくろう。	アイデアカードの動きをつなげて、グループでまとまりのある作品をつくろう。	アイデアカードの動きをつなげて、グループでまとまりのある作品をつくろう。	アイデアカードの動きをつなげて、グループでまとまりのある作品をつくろう。	アイデアカードの動きをつなげて、グループでまとまりのある作品をつくろう。	アイデアカードの動きをつなげて、グループでまとまりのある作品をつくろう。
アイデアカードの動きをつなげて、グループでまとまりのある作品をつくろう。	アイデアカードの動きをつなげて、グループでまとまりのある作品をつくろう。	アイデアカードの動きをつなげて、グループでまとまりのある作品をつくろう。	アイデアカードの動きをつなげて、グループでまとまりのある作品をつくろう。	アイデアカードの動きをつなげて、グループでまとまりのある作品をつくろう。	アイデアカードの動きをつなげて、グループでまとまりのある作品をつくろう。

【資料2：生徒の意見が貼られたグループカード】



【写真7：短距離走でゴールの瞬間に転んだ選手を演じる様子】

の楽しさを生徒に感じ取らせることができた成果であると考え。その際、次のような手立てが有効であったと考える。

○ 外部指導者を招いての授業は、全身を大きく使って楽しそうに踊る外部指導者を見て、ダンス経験のない生徒も自然と大きく動くことができた。

○ グループを固定せず多くの生徒と交流する場を設定したことで、友達の表現のよさに気付かせることができた。

## ② 課題

中間発表会の際に外部指導者を招き、生徒に評価や助言を行うことで、さらに表現や構成に広がりや深まりのある創作ができるようになるのではないかと考える。

また、まとまりのある作品をつくる学習では、何を表現するのかが明らかな具体的なめあての提示、表現内容を焦点化するための動きの数の制限、表現を考える際の効果的な音楽の活用などの工夫が必要であると考え。

## (3) 成果・課題

### ① 成果

単元終了後のアンケートでは、授業全体を通して「とても楽しかった」「まあ楽しかった」と答えた生徒が93%であった。また、感想にも「最初は恥ずかしいからいやだと思っていたけど、どんどん楽しくなっていく。」「エアロビクスの先生も来てくださって思い切り体を動かすととても楽しかった。」「みんなでたくさん意見を出しながら楽しく授業ができた。友達の見つけられたり、意見が聞けたりしてよかった。」など、表現することや体を動かすことの楽しさ、仲間とかわることの大切さを実感できたと考え。

このような生徒の姿は、学習活動を通して体を大きく動かすことや、表現すること

## 3 今後の展望

生徒が思い切り体を動かす楽しさを実感する上で、外部指導者の招へいは生徒の意欲向上に有効であった。地域の人材発掘のためにも人材リストなどを作成し、近隣の学校で共有していく必要があると考える。

また、打ち合わせの時間の確保や設備(教具)の準備等、難しい面もあるが、今後も機会を設けて外部指導者を招へいできればと考えている。本実践の単元構成や学習活動をさらに練り直し、来年以降につなげていきたい。

- 1 学年及び単元 第1学年 創作ダンス
- 2 指導と評価計画 (10時間扱い)

1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
オリエンテーション ダンスの特性や歴史について 授業の約束事の確認 作品鑑賞	○ 即興を中心とした活動 ・体ほぐしの運動 ・リーダーの模倣 ・音楽や言葉のイメージを膨らませた表現活動 ・ペーパームーブメント ・新聞紙を使った表現活動 ・エアロビクスダンス				○ いろいろなテーマによる表現(「なか」の創作) ・スポーツをテーマにしたイメージの表現 ・短いまとまりのある作品づくり		○ 内容を深めた表現活動 ・ひとまとまりの表現 ・「なか」を生かした作品づくり → 「はじめ」と「おわり」の創作 ・テーマの再設定 ・場所・空間の使い方 ・リハーサル		発表会

	学習のねらい・活動	学習の具体的な評価規準				
		時	関心・意欲・態度	思考・判断	運動の技能	知識・理解
はじめ 50分×1	<b>学習Ⅰ</b> ○ ダンスに対する興味や関心を持つ。 ○ 創作ダンスの学習の約束事を共有する。 オリエンテーション ・ ダンスの特性・歴史、ねらい・計画 ・ 個人カードの記入の仕方、用具の使い方 ・ 創作ダンスの作品鑑賞	1	①ダンスに対する興味や関心を持っている。 ○ダンスの特徴を分類している。 [学習時の観察]	①ダンスの授業の約束事を共有している。 ○仲間と学習する場面に当てはめている。 [学習ノートの記述]		①ダンスの特性を理解している。 ○具体例を記述している。 [学習ノートの記述]
なか 1 50分×4	<b>学習Ⅱ</b> ○ 即興を中心とした活動を行い、音楽や言葉のイメージを膨らませ、表現する楽しさを味わう。 ○ 体を大きく動かす楽しさを味わう。 1 体ほぐしの活動 ① ストレッチ ② 歩く・スキップ・後ろ歩きなど 2 ペア・グループでの活動 ① リーダーを交代しながら動きの模倣 ② 歩く・スキップ・後ろ歩きなど ③ グループでボディパーカッション 3 ペーパームーブメント ① 1人での活動 ② ペアでの活動 4 エアロビクスダンス ① ボディトレーニング ② 大きな動作でのダンス 5 新聞紙を使った表現活動 ① 教師との活動 ② グループでの活動	2 3 4 5	②思い切り動く楽しさを味わおうとしている。 ○積極的に取り組もうとしている。 [学習時の観察] ③自分や仲間のよさを認めようとしている。 ○仲間のよさを認めようとしている。 [学習時の観察] [ノートの記述]	②言葉や音楽、形などから様々な動きを考えることができる。 ○課題に応じた動きを選んでいる。 [学習時の観察] [ノートの記述]	①いきいき大きく動くことができる。 ○全身を十分に使って動いている。 [学習時の観察]	②ダンスに関連して高まる体力について、具体例を挙げている。 ○具体的に記述している。 [ノートの記述]
なか 2 50分×4	<b>学習Ⅲ</b> ○ いろいろなテーマからイメージや動きを膨らませて表現する。 ○ まとまりのある作品をつくる。 6 スポーツをテーマにした作品づくり [1] ① グループテーマ(種目)の決定 ② 個人でのアイデアカード作成 ③ グループでの動きの構成 ・動きの選択・順番などの決定 ④ 修正・付加および練習 ⑤ 中間発表会 7 スポーツをテーマにした作品づくり [2] ① グループテーマ(種目)の再決定 ② 個人でのアイデアカード作成 ③ グループでの動きの構成 ・動きの選択・順番などの決定 ・表現方法の工夫 ④ 修正・付加および練習 ・イメージと動きの再確認 ・空間や場所の使い方の確認 ⑤ リハーサル	6 7 8 9	④話し合いに積極的に参加し、分担した役割を果たそうとしている。 ○意欲的に意見を出している。 [学習時の観察] [ノートの記述] ⑤仲間と意欲的にダンスに取り組んでいる。 ○仲間のよさを見つけている。 ○積極的に踊っている。 [学習時の観察] [ノートの記述]	③テーマに合ったイメージや動き、表現方法を考えることができる。 ○アイデアカードに意見を記入している。 [ノートの記述]	③表したいイメージが伝わるように踊ることができる。 ○イメージをとらえ動きで表現している。 [学習時の観察]	
まとめ 50分×1	<b>学習Ⅳ</b> ○ 発表会を行い、お互いの作品を鑑賞してダンスの楽しさを共有し、実感する。 1 鑑賞の視点の確認 2 発表会および鑑賞 3 学習のまとめ	10	④発表の場面で仲間のよい動きや表現を指摘している。 ○具体的に記述している。 [ノートの記述]		③ダンスの特性や表現の仕方について学習した具体例を挙げている。 ○具体的に記述している。 [単元末試験]	

※ ○印は、十分満足と判断される状況